

1981年大会記録

国際

ニュージーランド・ゲームズ=フリースタイル(1月25~28日、ニュージーランド・

カウレス)

52kg級 小林利典(大東大)=2位、 57kg級 上野宏之(日体大)=3位、 62kg級 五位塚悟(大東大)=3位、 68kg級 大家岳彦(日体大)=2位、 74kg級 岸本茂範(中大)=3位、 82kg級 茂木修(日体大)=4位、 90kg級 西塚賢一(明大)=5位、 100kg以上級 山本邦寿(日体大)=2位、 国別対抗得点=4位

世界ジュニア選手権(7月11~18日、カナダ・バンクーバー)

《フリースタイル》 48kg級 石川真一(国士舘大)=優勝、 52kg級 野口芳孝(国士舘大)=6位、 57kg級 西村潔(八戸大)=二失、 62kg級 内山正美(日体大)=三失、 68kg級 中田薫(国士舘大)=4位、 74kg級 樋口直己(日体大)=2位、 82kg級 水橋徹(国士舘大)=二失、 90kg級 曾根哲郎(法大)=三失、 100kg級 本田多聞(茨城・土浦日大高)=4位、 100kg以上級 三宅勝(専大)=二失

《グレコローマン》 48kg級 高地伸夫(拓大)=二失、 52kg級 三宅正徳(日体大)=3位、 57kg級 大町孝雄(国士舘大)=四失、 62kg級 土井宏治(国士舘大)=二失、 68kg級 根本誠次(日体大)=6位、 74kg級 福岡浩一(国士舘大)=二失、 82kg級 馳浩(専大)=二失、 90kg級 堀正治(専大)=二失、 100kg級 石森宏一(大体大)=6位、 100kg以上級 武田高弘(専大)=二失

ユニバーシアード(7月20~26日、ルーマニア・ブカレスト)

《フリースタイル》 48kg級 石川利明(栃木・足利工大付高教)=優勝、 52kg級 佐藤満(日体大)=優勝、 57kg級 富山英明(日大教)=2位、 62kg級 五位塚悟(大東大)=4位、 68kg級 上村政和(日大)=三失、 74kg級 岸本茂範(中大)=6位、 82kg級 太田章(東海大研)=4位

《グレコローマン》 48kg級 大川秀和(日体大)=3位、 52kg級 宮原厚次(自衛隊)=4位、 57kg級 水谷一也(日体大)=5位

世界選手権=グレコローマン(8月28~30日、ノルウェー・オスロ)

48kg級 佐々木文和(島根県教委)=3位、 52kg級 宮原厚次(自衛隊)=2位、

57kg 級 阿佐雄二(自衛隊) = 二失、 62kg 級 長内清一(三八教育事務所) = 5 位、
68kg 級 南敏文(滋賀県立体育館) = 三失、 74kg 級 谷一郎(日体大) = 三失、 82kg
級 伊沢厚(警視庁) = 三失、 90kg 級 今村民夫(自衛隊) = 二失、 100kg 級 藤田芳
弘(和歌山・和歌山北高教) = 三失、 100kg 以上級 竹中徹(中大) = 二失

世界選手権 = フリースタイル(9月11~14日、ユーゴスラビア・スコピエ)

48kg 級 入江隆(自衛隊) = 5 位、 52kg 級 朝倉利夫(国士舘大教) = 優勝、 57kg
級 富山英明(日大教) = 3 位、 62kg 級 杉野浩吉(自衛隊) = 4 位、 68kg 級 上村
政和(日大) = 三失、 74kg 級 田谷久男(自衛隊) = 三失、 82kg 級 太田章(東海大
研) = 三失、 90kg 級 鈴木光(ユナイテッドスティール) = 三失、 100kg 級 安藤正哉
(日体大) = 二失、 100kg 以上級 松永清志(和歌山県教委) = 三失

アジア・ジュニア選手権 = フリースタイル(10月30日~11月3日、インド・ヒサー

ル)

48kg 級 飯塚英明(静岡・修善寺工高) = 6 位、 52kg 級 角地山豊(青森・光星学
院高) = 2 位、 56kg 級 菅原弘(秋田・秋田商高) = 5 位、 60kg 級 赤石光生(青森・
光星学院高) = 優勝、 65kg 級 中村勝雄(青森・光星学院高) = 3 位、 70kg 級 平山
宣伸(岡山・岡山日大高) = 6 位、 75kg 級 倉内康好(青森・光星学院高) = 4 位、 81kg
級 宮崎達也(群馬・関東学園高) = 6 位、 87kg 級 呑香龍二(青森・光星学院高) =
5 位、 87kg 以上級 東政弘(日体大) = 優勝

フリースタイルのみ

アジア選手権 = フリースタイル(12月1~4日、パキスタン・ラホール)

48kg 級 入江隆(自衛隊) = 棄権(交通事故)、 52kg 級 朝倉利夫(国士舘大教)
= 優勝、 57kg 級 滝田達也 = 3 位、 62kg 級 金子博 = 2 位、 68kg 級 上村政和(日
大) = 2 位、 74kg 級 田谷久男(自衛隊) = 棄権(交通事故)、 82kg 級 太田章(東
海大研) = 優勝、 90kg 級 浅野修 = 2 位、 100kg 級 安藤正哉(日体大) = 4 位、
100kg 以上級 田端久和 = 2 位

フリースタイルのみ

国内

全国高校選抜大会(4月2~3日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院、 [2] 茨城・土浦日大、 [3] 韓国・全羅北道

《個人戦優勝者》 48kg 級 小林孝至(茨城・土浦日大)、 52kg 級 角地山豊(青森・

光星学院)、 56kg 級 養学稔(徳島・池田)、 60kg 級 田村英樹(神奈川・日大藤沢)、
65kg 級 中村勝雄(青森・光星学院)、 70kg 級 平山宣伸(岡山・岡山日大)、 75kg
級 倉内康好(青森・野辺地工)、 75kg 以上級 本田多聞(茨城・土浦日大)

西日本学生春季新人戦 = フリースタイル (5月3日、大阪・桃山学院大)

《優勝者》 48kg 級 中野雅裕(名城大)、 52kg 級 鍛冶将喜(近大)、 57kg 級 山
本仁志(近大)、 62kg 級 諸岡渡(名商大)、 68kg 級 田中正昭(同志社大)、 74kg
級 高橋照彦(名商大)、 82kg 級 泉森一喜(近大)、 82kg 以上級 石森宏一(大体
大)

フリースタイルのみ

東日本学生リーグ戦 (5月14~16・23日、東京・青少年総合センター、駒沢体育館)

《順位》[1]日体大(3年連続5度目)、[2]日大

(A組順位)[1]日体大、[2]専大、[3]中大、[4]明大、[5]拓大、[6]東農
大

(B組順位)[1]日大、[2]国士大、[3]大東大、[4]東洋大、[5]東海大、[6]
法大

世界ジュニア選手権代表選考会 (5月29~31日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 石川真一(国士舘大)、 52kg 級 野口芳孝(国
士舘大)、 57kg 級 西村潔(八戸大)、 62kg 級 内山正美(日体大)、 68kg 級 中
田薫(国士舘大)、 74kg 級 樋口直巳(日体大)、 82kg 級 水橋徹(国士舘大)、 90kg
級 曾根哲郎(法大)、 100kg 級 本田多聞(茨城・土浦日大高)、 100kg 以上級 三
宅勝(専大)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 高地伸夫(拓大)、 52kg 級 三宅正徳(日体大)、
57kg 級 大町孝雄(国士舘大)、 62kg 級 土井宏治(国士舘大)、 68kg 級 根本誠
次(日体大)、 74kg 級 福岡浩一(国士舘大)、 82kg 級 馳浩(専大)、 90kg 級 堀
正治(専大)、 100kg 級 = 出場なし、 100kg 以上級 武田高弘(専大)

西日本学生選手権 (5月29~31日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 田中一成(桃山学院大)、 52kg 級 内田昭次(徳
山大)、 57kg 級 秋山徳久(福岡大)、 62kg 級 小野憲一(近大)、 68kg 級 守田
武史(徳山大)、 74kg 級 林三千年(福岡大)、 82kg 級 宮本明宏(徳山大)、 82kg
以上級 南正樹(近大)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 田中一成(桃山学院大)、 52kg 級 亀田雅彦(関大)、 57kg 級 北嶋賢一(福岡大)、 62kg 級 井手雅博(福岡大)、 68kg 級 守田武史(徳山大)、 74kg 級 元山勇人(徳山大)、 82kg 級 宮本明宏(徳山大)、 82kg 以上級 木村満彦(同志社大)

全日本社会人選手権(6月6~7日、東京・青少年総合センター)

《官公庁対抗優勝》自衛隊、《実業団対抗優勝》ユナイテッド・スチール、《クラブ対抗優勝》木口道場、《三部対抗優勝》自衛隊

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 入江隆(自衛隊)、 52kg 級 福山雄二(自衛隊)、 57kg 級 朝倉利夫(国士館大助)、 62kg 級 杉野浩吉(自衛隊)、 68kg 級 山口勝之(和歌山県協会)、 74kg 級 南正昭(宮崎ウ)、 82kg 級 木村年貴(滋賀県体協)、 90kg 級 浅野修(千葉県協会)、 100kg 級 山本博(栃木県協会)、 100kg 以上級 松永清志(和歌山県協会) 山本邦寿(滋賀県体協) = 両者優勝

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 佐々木文和(島根県協会)、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊)、 57kg 級 朝倉利夫(国士大助)、 62kg 級 阿佐雄二(自衛隊)、 68kg 級 山口勝之(和歌山県教ウ)、 74kg 級 南敏文(滋賀県体育館)、 82kg 級 伊沢厚(警視庁)、 90kg 級 向井孝博(自衛隊)、 100kg 級 谷口聖平(木口道場)、 100kg 以上級 松永清志(和歌山ウ)

東日本学生春季新人戦(6月19~21日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 矢作章(日大)、 52kg 級 堀江薫雄(日体大)、 57kg 級 松浦晋(日体大)、 62kg 級 友藤威(八戸大)、 68kg 級 佐藤卓(早大)、 74kg 級 中田薫(国士館大)、 82kg 級 福辺雅彦(日体大)、 90kg 級 馳浩(専大)、 90kg 級以上 三宅勝(専大)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 矢作章(日大)、 52kg 級 大川秀和(日体大)、 57kg 級 三宅正徳(日体大)、 62kg 級 井岡克哉(法大)、 68kg 級 根本誠次(日体大)、 74kg 級 石毛昭弘(東洋大)、 82kg 級 福辺雅彦(日体大)、 90kg 級 堀正治(専大)、 90kg 級以上 武田高広(専大)

西日本学生春季リーグ戦(6月26~28日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1]徳山大(3季ぶり3度目)、[2]福岡大、[3]同志社大、[4]近大、[5]大体大、[6]名古屋商大

全日本選手権（7月3～5日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》 48kg級 入江隆（自衛隊）、 52kg級 朝倉利夫（国土大助）、 57kg級 富山英明（日大教）、 62kg級 杉野浩吉（自衛隊）、 68kg級 上村政和（日大）、 74kg級 田谷久男（自衛隊）、 82kg級 太田章（東海大研）、 90kg級 鈴木光（ユナイテッドスティール）、 100kg級 安藤正哉（日体大）、 100kg以上級 松永清志（和歌山県教委）

《グレコローマン優勝者》 48kg級 佐々木文和（島根県協会）、 52kg級 宮原厚次（自衛隊）、 57kg級 阿佐雄二（自衛隊）、 62kg級 長内清一（三八教育事務所）、 68kg級 南敏文（滋賀県体教）、 74kg級 谷一郎（日体大）、 82kg級 伊沢厚（警視庁）、 90kg級 今村民夫（自衛隊）、 100kg級 藤田芳弘（和歌山・和歌山北高教）、 100kg以上級 竹中徹（中大）

インターハイ（8月6～9日、茨城・水戸市民体育館）

《学校対抗戦》[1]茨城・土浦日大、[2]神奈川・日大藤沢、[3]青森・光星学院、山形・山形商

《個人戦優勝者》 48kg級 小林孝至（茨城・土浦日大）、 52kg級 角地山豊（青森・光星学院）、 56kg級 菅原弘（秋田・秋田商）、 60kg級 赤石光生（青森・光星学院）、 65kg級 中村勝雄（青森・光星学院）、 70kg級 古橋優（茨城・土浦日大）、 75kg級 倉内康好（青森・野辺地工）、 75kg以上級 本田多聞（茨城・土浦日大）

全日本学生選手権（8月22～25日、大阪・大阪府立体育会館）

《フリースタイル優勝者》 48kg級 石川真一（国土館大）、 52kg級 佐藤満（日体大）、 57kg級 上野宏之（日体大）、 62kg級 五位塚悟（大東大）、 68kg級 上村政和（日大）、 74kg級 菊地隆（大東大）、 82kg級 茂木修（日体大）、 90kg級 富田栄作（専大）、 90kg級以上 安藤正哉（日体大）

《グレコローマン優勝者》 48kg級 橋本伸幸（明大）、 52kg級 佐藤満（日体大）、 57kg級 水谷一也（日体大）、 62kg級 栄和人（日体大）、 68kg級 中島光正（大東大）、 74kg級 樋口直己（日体大）、 82kg級 東出徹（日体大）、 90kg級 山本隆（日体大）、 90kg級以上 石森宏一（大体大）

西日本学生秋季新人戦（9月12～13日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》 48kg級 奥田聡（大阪市立大）、 52kg級 河原公成（近大）、 57kg級 鍛冶川大禎（大体大）、 62kg級 福本富雄（大体大）、 68kg級 吉

田主税(近大)、74kg級 川口豊隆(大体大)、82kg級 山口育孝(大体大)、82kg以上級 石森宏一(大体大)

《グレコローマン優勝者》48kg級 奥田聰(大阪市立大)、52kg級 鍛冶将喜(近大)、57kg級 山本仁志(近大)、62kg級 西井篤(同志社大)、68kg級 田中正昭(同志社大)、74kg級 川口豊隆(大体大)、82kg級 泉森一喜(近大)、82kg以上級 南正樹(近大)

全日本学生王座決定戦(9月24~25日、東京・駒沢体育館) = 決勝成績

日体大 [6-3] 国士舘大

日体大は4年連続5度目の優勝

国体(10月14~17日、滋賀・甲賀町公園体育館、勤労身体障害者体育館)

《成年フリースタイル優勝者》48kg級 入江隆(茨城・自衛隊)、52kg級 清水清人(宮崎・日南高教)、57kg級 上野宏一(青森・日体大)、62kg級 栄和人(鹿児島・日体大)、68kg級 上村政和(鹿児島・日大)、74kg級 南正昭(宮崎・都城高教)、82kg級 茂木優(秋田・秋田商高教)、90kg級 鈴木光(茨城・ユナイテッドスチール)、100kg級 平山進(滋賀・県体育館)、100kg以上級 山本邦寿(滋賀・県体育館)

《成年グレコローマン優勝者》48kg級 佐々木文和(島根・県庁)、52kg級 宮原厚次(埼玉・自衛隊)、57kg級 柏木究(徳島・国府養護教)、62kg級 長内清一(青森・三八教育事務所)、68kg級 南敏文(滋賀・県体育館)、74kg級 谷一郎(徳島・日体大)、82kg級 伊沢厚(東京・警視庁)、90kg級 今村民夫(埼玉・自衛隊)、100kg級 藤森安一(東京・警視庁)、100kg以上級 松永清志(和歌山・県武道館)

《少年フリースタイル優勝者》48kg級 小林孝至(茨城・土浦日大)、52kg級 角地山豊(青森・光星学院)、56kg級 菅原弘(秋田・秋田商)、60kg級 赤石光生(青森・光星学院)、65kg級 中村勝雄(青森・光星学院)、70kg級 平山宣伸(岡山・岡山日大)、75kg級 川田利明(栃木・足利工大付)、81kg級 林久晴(千葉・八千代松陰)、87kg級 田中浩一(宮崎・都城商)、87kg以上級 本田多聞(茨城・土浦日大)

《少年グレコローマン優勝者》48kg級 兼村一(沖縄・読谷)、52kg級 黒飛健(静岡・修善寺工)、56kg級 林康晴(岐阜・岐阜西工)、60kg級 飛田達也(茨城・土浦日大)、65kg級 森巧(徳島・貞光工)、70kg級 糸川長武(山口・柳井)、75kg

級 松井浩幸（新潟・巻農）、 81kg 級 山崎良次（神奈川・湘南）、 87kg 級 和田正（新潟・北越商）、 87kg 以上級 猿田充（秋田・五城目）

東日本学生グレコローマン選手権（10月29日、東京・青少年総合センター） = 決勝成績

日体大 [7 - 2] 国士舘大

西日本学生秋季リーグ戦（11月27～29日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 徳山大（2季連続4度目）s、 [2] 同志社大、 [3] 福岡大、 [4] 近大、 [5] 大体大、 [6] 名古屋商大

東日本学生秋季新人戦（11月17～19日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 高橋成敏（専大）、 52kg 級 大川秀和（日体大）、 57kg 級 森岡敬志（日体大）、 62kg 級 松浦晋（日体大）、 68kg 級 友藤威（八戸大）、 74kg 級 和久井始（東洋大）、 82kg 級 谷川英樹（専大）、 90kg 級 桜井裕（東洋大）、 90kg 級以上 堀正治（専大）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 鈴木博貴（東洋大）、 52kg 級 一色啓雅（専大）、 57kg 級 井上智明（国士舘大）、 62kg 級 土井宏治（国士舘大）、 68kg 級 湯浅誠次（日体大）、 74kg 級 根本誠次（日体大）、 82kg 級 馳浩（専大）、 90kg 級 福辺雅彦（日体大）、 90kg 級以上 大川浩一（日大）

全日本大学選手権（12月22～23日、東京・東京体育館）

《優勝者》 48kg 級 石川真一（国士舘大）、 52kg 級 佐藤満（日体大）、 57kg 級 上野宏之（日体大）、 62kg 級 五位塚悟（大東大）、 68kg 級 上村政和（日大）、 74kg 級 樋口直巳（日体大）、 84kg 級 茂木修（日体大）、 90kg 級 富田栄作（専大）、 90kg 以上級 安藤正哉（日体大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（5年連続6度目）、 [2] 国士舘大、 [3] 東洋大